

心身の悩み相談 感染症検査も

県内に住む日系ブラジル人らを対象にした支援イベントが十二日、津市羽所町のアスト津で開かれ、約四十人が訪れた。赤い羽根共同募金の助成金を使い、NPO法人愛伝舎(鈴鹿市)など外国人支援に取り組む県内外の四団体が合同で開催。心や体の不調を抱える人の相談を聞いたり、南米由来の感染症の検査を無料で実施したりした。

(杉山果奈美)

地域内で早期に精神疾患に対応できる仕組みづくりを広めている東邦大などの研究グループ「MEICIS」は、ポルトガル語などの通訳を通じて、八人の外国人から心の相談を受け付けた。同グループによると、気持ちの落ち込みや子どもの発達などに関する相談が多い。言葉の壁があるため、症状が重篤になってから発覚する例もあるという。相談に訪れたブラジル国籍の四十代女性は「不登校の息子のことで悩んでいた。精神科の医師に相談ができて良かった」と話した。別のブースでは、南米由来の感染症「シャーガス病」を研究するNPO法人「MAIKEN」(東京)が、血液検査を受け付けた。

日系ブラジル人を支援 亀山の団体など津でイベント



①シャーガス病の検査を受ける来場者
②無料で配布するため、鈴亀アミーゴスが用意した衣類や日用品=いずれも津市羽所町のアスト津で



シャーガス病は、中南米に生息するサシガメが人の血を吸う際などに、寄生虫が体に入

り込んで発症する病気。心臓破裂に至り、死亡することもある。発症までに十〜二十年かかったり、母から子に感染したりするため、日本の滞在歴が長くても感染している可能性がある。三浦左千夫代表は「早期の発見が大切。心臓の不整脈の診断にも使ってもらえれば」と呼び掛けた。鈴亀アミーゴス(亀山市)は、衣類や食料品を無料で配布。相談に訪れた家族や友人連れが、受け取っていた。